各教室の取り組み

― 「オススメ」の遊びを紹介 ―

2009 年 3 月 8 日

制作　滋賀県障害児地域療育連絡協議会
http://www.shiga-syouchiren.net/

各教室の取り組み紹介

県下の療育教室それぞれの特色や内容など
毎回テーマを変えて色々なことを紹介し
情報発信の場としていけたら…
と、思っています。

今回は、各教室で楽しんでいる親子遊びの中の「オススメ」の遊びを紹介しています。

揺れを伴った遊び、感触を味わう遊び、大人との触れ合い遊び、視覚支援を用いた遊びなど、療育教室ではもちろん、おうちでも楽しめる遊び、保育園や幼稚園でも楽しめそうな遊びが盛りだくさんです。

こどもの「もう１回したい！」「一緒に遊ぶの楽しいな」という気持ちを豊かに育ててあげたいですね。

やまびこ教室

やまびこ教室（週２日）は、大津市のやまびこ総合支援センター内にあります。主に保育園や幼稚園に就園する前の２，３歳の子どもたちが通っています。やまびこ園（週５日）と合わせて 60 名程の子どもたちが通園しています。やまびこでは、日中（10 時から 15 時）の子どもの生活を主軸において、療育を行っています。親子で、生活を子どもの目線で楽しんだり、一緒に生活経験を拡げたりする活動や遊びも大切にしています。

「さんま焼き」　　（『やまびこ通信８号』より抜粋）

今年もやまびこ恒例のさんまやきを行いました！旬のさんまを目の前でジュージュー焼いて，五感でもって秋の味覚を満喫しようと毎年計画しているものです．ここ最近では，さんまやきが子どもたちの心によりとどまるようにと，その前に近くのお店に親子で，さんまを買いにでかけています．

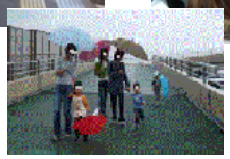
わぁ，さんまがいっぱい

「このさんまどうするの？」“スミビデヤイテモラウノ”というお店の人とのやりとりがあったかどうかはわかりませんが，無事お買い物をすませて園庭へ*GO！*

買ってきたさんまを　おじさんたちに焼いてもらっていると，やっぱり気になる子どもたち．“ぼくもいっしょにパタパタした～い”　とやってきます．ちいさなお友だちは，焼いている間は？？？という感じなのですが，いざ目の前にきたさんまを見ると思わず手を出して，触ってみたくなりました．

そんなこんなでやきたてのとってもおいしいさんまを味わってさんま焼きは終了．「うちの子がこんなに魚をたべるのは初めて！びっくりです．」との驚きの声が毎年お母さんから聞かれます．やまびこ中にさんまやきの残り香が漂っている頃…….お部屋ではお腹いっぱいの子どもたちが，かわいいさんまやきに興じています．さんまやきは，すっかりやまびこの秋の風物詩となりました。

この他にも親子で電車に乗っておでかけする園外保育や親子プールなども楽しんでいます。



京阪電車に乗っておでかけ！雨の日は、傘をさしてお散歩を楽しみました。

お母さんに身を任せたり、しがみついたりして親子関係を深めます。

『彦根市あすなろ教室』(彦根子ども療育センター)

・発達上の課題をもつ就学前のお子さんが、現在、80 人余り利用しています。まだ年齢の低いお子さんにはさまざまな遊びをとおして、発達をサポートしています。そこて、今回は音楽に合わせて「歩く」「おふね」「ヒコーキ」「振り子」「回転」などの遊びを組み合わせた『教室オリジナルの親子遊び～遊園地』を紹介します。

・曲は、♪ミッキーマウスマーチ→唱歌「海」→♪ミッキーマウスマーチ→♪空とぶ仲間→♪ミッキーマウスマーチ→「時計」カチカチコッチンおとけいさん→♪ミッキーマウスマーチ→円広志さんの「夢想花」回って回って…→♪ミッキーマウスマーチ　各曲とも適当な長さで事前に録音しておきます。

遊びのねらい　○大人として「楽しい」と子どもが感じられること。そして「もっとして」「またしたい」と遊びの要求につながること。※音楽と活動をセットにすることで、見とおしがつきやすくなります。

親子ともに楽しめますが、結構体力が要り、体重のあるお子さん相手だと汗をかくほど。寒くなる季節、暖房なしで温かくなり(経費節約)、メタボ対策(健康維持)にもお勧めです。一石三鳥の優れものです。

① ミッキーマウスマーチに合わせて手をつないで「歩くこと」 簡単そうで、難しいお子さんが多いものです。ポイント:無理に手を掴むと振りほどかれるかもしれません。無理せず、でもしっかりつないでみましょう。一緒に歩いたら、次に好きなことをしてもらえると見通しがつくと振りほどかずにつないで歩いてくれるでしょう。大人と歩けるようになったら、子ども同士で手をつないで歩くことも試してみましょう。

② 「海」 下の図②のように床に座り、手をつなぎます。ぎったんばっこんの『おふね』です。このポイント　最初は大人がリードして、引っ張ったり、寝かすようにします。が、「引っ張って」など声かけしつつ、徐々にふたりが交互に力を入れて引いたり、力を緩めたりできると最高です。「引き起こす」「引っ張ってもらう」交互に役割交代できる遊びです。

③ 「空とぶ仲間」 図③のように「ヒコーキ」みたいに飛ばせます。ポイント　腕の上でお子さんも両腕をピンと横に伸ばして翼みたいにできるといいですね。ダラリと力がはいらないお子さんも多いので、ミラーなどで姿勢が確認できるといいですね。怖がるお子さんはしっかり抱えてあげましょう。大きなお子さんの場合、持ち上げず親子とも両腕を左右にピンと伸ばして、ともにヒコーキになってかっこよく飛ぶのも楽しいです。

④ 「時計」のポイント　両脇から持ち上げてお子さんを揺らします。大きなお子さんの場合など親子ともに振り子になります。大の字みたいに両腕を左右に広げ、足も左右に開いてゆっくりとリズムに合わせて右に左に体重移動する遊び方もあります。

⑤ 「夢想花」で「回転」させます。　ポイント　回転に弱いお子さんは同じ方向ばかりせず、逆方向にも回転させます。回転後、立たせるとよろめいたりすることがあるのでケガのないように注意が必要です。また、外向きの抱っこで不安がる時は向き合って抱っこして回転してもいいでしょう。

①　②　③　④　⑤

曲(歌詞)からも活動がイメージしやすいように選曲していますが、同時に絵カードも提示しています。

○さあ、親子で楽しく汗をかいてみましょう。

守山市発達支援センター

あゆっ子教室

あゆっ子教室は、発達に遅れや偏り、あるいはそれらの疑いのある子どもやその保護者の皆さんのための療育機関です。遊具を使った運動遊びや、関係性を育む遊びなどを通して子どもへの療育と保護者への助言を行います。
現在、０歳児から５歳児までの未就園、併行通園児が利用しています。
今回は、主に未就園児が楽しんでいる親子遊びを紹介したいと思います。

☆親子遊びの紹介

「大きくなあれ小さくなあれ」・・輪になって隣の人と手をつなぎ、人を意識し、ふれあうことを楽しみながら遊んでいます。最後に、たかーく上げてもらうことを期待し、「もう、一回」の要求が、たくさん出てきます。子どもたちが大好きな遊びです。

「ビタミンＣ」・・♪「からだにいいのはレモン汁。お肌にいいのはレモン汁。ギュッとしぼってギュっとしぼってビタミンＣ～」　　曲に合わせて、膝の上に乗せて揺らしたりこすったり、最後はしっかり抱きしめます。お母さんの手で温かさや刺激を伝え、抱きしめることで親子関係も育んでいけるといいな。

「湖の子教室のふれあい遊びの紹介」

年少組　「糸ぐるま」１歳～２歳児中心

分かりやすい動きで楽しんででき、ゆるやかな動きと速い動きの繰り返しが喜ばれる遊びで、そのリズム感を楽しんだり、友だちや大人と一緒にみんなですることが楽しめるようにと毎朝の体操・リズム遊びの最後に「糸ぐるま」をしています。子どもと保育士ですることもあれば、親子療育の日にはおうちの方も一緒に大きな輪になり楽しむ姿が見られます。

(歌詞、メロディ＜引用：さくら・さくらんぼのリズムとうた　斎藤公子著　群羊社＞)

歌詞	大人や子どもの動き
「ぶんぶんまわれ　糸ぐるま 　ぶんぶんまわれ　糸ぐるま」	手をつないで輪になって横に右回りに歩く。
「畠じゃ小麦も　ぐんぐんのびる」	輪の中心に向かって進む。
「僕らのくらしを　はげますように」	広がりながら後ろに下がり元の輪に戻る。
「ぶんぶんまわれ　糸ぐるま」	輪になったまま横に歩いて回る。
「ラララン　ラララン　ラララララララン～♪」	つないだ手を振りリズムをとる。
糸車を歌い終わったら…　「どっし～ん」と仰向けに寝転がり… 「ととけっこ～　夜が明けた～　まめでっぽ～　起きてきな～　おはよ～」 「おはよ～」で起き上がって終わりです。	

年長組　「むっくりくまさん」２～３歳児中心

毎朝の体操・リズム運動をする時に遊戯室に入るとまずは大きな部屋を走り回る子どもたち。そこで、歌に合わせて手遊びをしたり、歌が終わったところで追いかけっこをしたりと、静と動の活動の中で、期待感を持ち、大人や友だちと楽しさを共有できるように「むっくりくまさん」をはじめました。

今では、部屋の真ん中に集まって座って、手遊びを真似る子どもも増えてきました。くま役の大人がお面をかぶり追いかけることで、子どもたちもお面をかぶりたがり、今ではお面がたくさん入った袋を持って、遊戯室に移動することを楽しみにしています。

(歌詞、メロディ＜引用：子どものうた２００　小林美実著　チャイルド本社＞)

歌詞	大人や子どもの動き
むっくりくまさん　　むっくりくまさん あなのなか。ねむっているよ　ぐうぐう ねごとをいって　むにゃむにゃ	くまのお面をつけて座って、寝る真似をしたり両手を動かしたりする。
めをさましたら　めをさましたら　たべられちゃうぞ」	立ち上がって、待て待て遊びの要領で追いかけて楽しむ。

長浜市こども療育センター　浜の子園

浜の子園は発達上何らかの問題（言葉が遅い、みんなと遊べない、歩行が遅い、落ち着きがない等)をもつ子どもたちとそのご家庭のために､早期からの療育の場として設けられたものです。
親子遊びの中でみんなが大好きなものを紹介します。

バスに乗って

いろいろな大きさ、色のセラピーボールに子どもが座り、上下に弾ませます。子どもたちは落ちないように乗っていてくれます。

♪バスにのってゆられてる　ゴーゴー
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
そろそろ　みぎに　まがります　３・２・１（右へ傾ける）
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
そろそろ　ひだりに　まがります　３・２・１（左へ傾ける）
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
そろそろ　でこぼこみちです　３・２・１（大きく弾ませる）
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
バスにのってゆられてる　ゴーゴー
そろそろ　止まります　３・２・１（前へ傾ける）

あらいぐまの親子

いろいろな感触材を使ってからだのいろいろな部位をこすり触刺激をします。

♪あらいぐまのおやこが　おふろにはいったよ。
いつでもなんでも　きれいに　あらうんだ。
〇〇をあらおう　ごしごしごし
こんどは　△△をごしごしごし
こんなにきれいになりました　ピカー！！

大型カラー布

長さ 10 メートルの手作りの大型カラー布です。
周囲をこども、保護者、スタッフで持ち､「いちにのさん」と言いながら上下に振り、最後に中へ入ります。大きなカラフルなドームの中で走り回ったり、飛びついてみたり
中で楽しんだ後はこどもだけ上に乗り、周囲を大人が持って上下に振り波をおこし、膨らんだところに座ってみたり､歩いてみたり｡最後には　おもちゃのチャチャチャに合わせて上下に振り､みんなに布をかぶせて、出てくるのを待ちます。

長浜市こども療育センター　わかば園

わかば園は、発達上なんらかの問題（ことばが遅い、みんなと遊べない、歩行が遅い、落ち着きがない等）をもつ子どもたちとそのご家庭のために、早期からの療育の場として設けられたものです。子どもたち１人ひとりの発達を支え、家庭、保育・教育機関で豊かに生活していけるよう支援しています。

療育の中で、子どもたちがいつも楽しみにしている**“サーキット遊び”**を紹介します。

サーキット遊びとは…

室内遊具を使った運動遊びです。

１本橋、はしご、トンネル、マット、太鼓橋などのいろいろな遊具を組み合わせて、グルッと１周できるように設定しています。

↓

①子どもたち自身が見通しを持って参加できるように、まずホワイトボードに遊具の写真を貼って、「今日はこんなサーキットをするよ」と提示して知らせます。

②子どもたちは、自分が出す遊具の写真を選びます。そして、保護者の方や担当と一緒に選んだ遊具を出して準備します。
重い遊具を運んだり、遊具を置く場所や向きなどを確認する中で、自主的な参加、固有感覚への刺激を入れ、物事を順序だてて考えていく力を養うことを目的としています。

③さあ、いよいよサーキット遊びの始まりです。
滑ると危険なので、靴下を脱いで遊びます。
子どもたち１人ひとりが自分のペースで取り組めるよう、保護者の方と担当が支援しながら遊びます。ちょっと不安な時は手をつないでもらったり、簡単な時は負荷になるような設定に変化させたり、担当が見本を示したりしながら遊びます。
１周まわるごとにカードにシールを貼って、目的が持ちやすいようにしたり、ボールプールの中から飾りを探してクリスマスツリーを完成させるなど、グループの子どもたちの発達状況に合わせて、季節感も取り入れながらサーキット遊びの内容を考えています。

④片付けも準備と同様に、子どもたちに手伝ってもらいます。

ホワイトボードと写真カードを使うことで、はじめは提示されたものに取り組むだけの子どもたちでしたが、写真カードを組み合わせて子どもたちがサーキットのコースを作り、それを組み立てて遊ぶこともできます。

サーキット遊びが終わった後は、どの子どもさんも“やり遂げた～”という満足感があるようで、その後の遊びにも積極的に参加できます。

栗東市たんぽぽ教室

生活や遊びを通して、子どもが持っている力を出せるように、またお母さんお父さんがこどもを理解し、子育てが楽しめるように、支援をしています。

♡ 親子遊びの紹介 ♡

揺さぶり遊びや、“たかいたかい”など身体と直接触れ合う遊びを好むお子さんもいれば、
一目瞭然☆☆見て分かりやすい遊びも子どもたちに大人気です。
その中でも、（たんぽぽならでは？？）ヒットした遊びを紹介しま～す。

ビニール遊び

準備物は、大量（約１０００枚）のビニール袋
曲はスマップのシェイク♪
子どもたちは、一気にテンション↑ビニール袋にダ～イブ！もぐり込んじゃおっ
ビニール袋を上から撒いたり、身体にクシュクシュっとこすりつけたり。
おうちの方もストレス発散！？
中には、感触が苦手だったり、大勢の人が苦手なお子さんも、
すこ～し離れて、ビニール袋が舞う様子を見たり、空気を入れた袋（風船）に触れたりと、
楽しみ方はそれぞれです♪

『この遊び（感触）は好きかな～？』『今、何に興味があるかな？』と、
そのクラスや、子どもに合わせた遊びや、提供の仕方を考えています。
初めての遊びの時は、見ることからの参加もOK。
まずは保育士やお家の方が楽しむことが一番！
子どもが、「ん？何かな？」と思ってくれたら、しめたものっ☆
親子で共に触れ合うことの楽しさや、繰り返しの経験から、遊び方や楽しみ方を知ることで、
もっと、もう一回！という気持ちを持つこと。
そのようなことを大切にしながら、楽しい！やった！と満足感や達成感を積むことで、
次への期待や意欲へとつなげていきたいと考えています。

高島市カンガルー教室

当教室は、高島市在住の乳幼児とそのご家族を対象とした療育教室です。在宅児（未就園の子どもさん）のクラスと、併行通園児（保育園・幼稚園等に通っている子どもさん）のクラスがあり、それぞれで親子あそびや発達に応じたあそびを行っています。今回紹介する２つの親子あそびは、お家の人と触れ合えるあそびです。子どもさんの『一緒に遊ぶの楽しい(*^_^*)』『もう１回したい！！』という気持ちの表れを大切にしています。どちらのあそびも道具を使わないのでいつでもどこでもできます。また、どの年令の子どもさんでも楽しめますよ。

♪おにぎり♪

①おにぎりを　②にぎにぎにぎにぎ　③ギュッギュッギュッ　④お塩もたくさんつけましょうー
⑤グーを入れたら　⑥できあがり　⑦ギュッ

①～③　２人で向かい合い、子どもの手を包むようにして持って“にぎにぎ”します。　親　子

④　子どもの体の色々な所に“つんつん”さわります。

⑤　子どもを抱きしめます。

⑥　子どもの頭を両手でなでます。

⑦　子どものほっぺをギュッとはさみます。

体の色々な所に触れて遊ぶことが出来ます。慣れてきたら、「今日のおにぎりの具は何にしよう？」と、具のリクエストを聞いたり、（子どもが返事できなければお家の人に聞きます。）「何個作る？」と、つもりを聞いたりします。尚、お家の方に覚えてもらいやすいように、少し振り付けを変えています。（楽譜がありますので、ご希望の方は教室までお問い合わせください！！TEL：0740-22-3223）

最後に「いただきます」と言って子どもさんをくすぐりましょう！！「ごちそうさまでした」でおしまいです。

馬乗り・おんぶ・抱っこ

このあそびは、数年前に運動会の『親子ふれあいタイム』としてプログラムに取り入れたのが始まりです。バランスをとりながら乗ること、背中にしがみつくこと、回転を感じること等の目的もありますが、心地良さを感じられるのが一番です。当たり前に経験していそうで、意外としたことがないお家の方も！！年長児さんのように大きな子どもさんも、大好きなあそびです。（体が不安定な子どもさんは、保育士がそばで支えています。）

それぞれの動きの時にあわせて歌もうたいます。

【おうま(馬乗り)】 ♪おうまのおやこ
【おんぶ】 ♪おんまはみんな
【抱っこ】 ♪ぶらんこ

体勢を変える時に、間奏として適当なリズム音を鳴らして、流れを止めないようにします。（3つの動きで1つのプログラムとします。）抱っこの最後に回転を入れて終わります。

甲賀市こじか教室

甲賀市こじか教室は、いろいろな活動を通して、発達に課題のあるお子さん・保護者を支援する教室です。現在、64人の子どもが通園しています。

今回は、子どもたちが大好きな親子遊びを一部紹介します(*^_^*)子どもたちがお母さんと一緒に身体を使って遊ぶことで、「楽しかった！」「もっと一緒にしたい！」と感じることを大切にしています。

ぶらんこ

布に寝転び、大人2人は写真のようにそれぞれ布を持ちあげて、♪おおなみ、こなみ♪おおなみ、こなみ♪おおなみ、こなみで♪お布団の山へとんでいけ♪と歌いながら左右に揺らします。そ～れ！どっし～ん！！のかけ声で、布団に下ろします！

一人で乗っても良いし、普段あまりお友達に関わっていかない子も、お友達と一緒に乗って楽しめたりします。

がたがたどっすん

比較的、年齢の高い子向けです。

まず、マットを写真のように積みます。足をかける位置があるように凸凹にした方がいいです。マットの周りに布団を敷きます。そして、子どもによじ登ってもらいます！

がたがたがたがた・・・とマットを揺らします。

どっす～ん！！のかけ声で、マットを崩して、お母さんのところに落下！！

よじ登る時に手足で踏ん張る動きを促すことができ、大好きなお母さんのところへ落下していくスリルも味わってもらえます。お友達と一緒に乗るのも楽しいです。

大人の数が少ないと危険なので、揺らす役と受け止める役を分けて、たくさんの大人がそばにいるようにしましょう。

❤❤❤詳しくは、甲賀市こじか教室まで❤❤❤
TEL：0748-63-5591

～おすすめの親子遊びについて～　　愛犬つくし教室

愛犬つくし教室は、愛知郡と犬上郡の子どもたちが対象になっている療育教室です。現在8グループありますが、だいたいどのグループも親子遊びを取り入れています。親子遊びのねらいは、親子でふれあうことで、楽しさを味わったり、共感関係を深めることです。それでは、人気の親子遊びをいくつか紹介したいと思います。

☆おすすめの親子遊びその1　　『シーツまきまき』

「糸まきまき」の替え歌で、「みーんなまきまき、みーんなまきまき、まーいてまーいてギュ、ギュ、ギュー、でーきたできたー、みーんなまーき、できたー」と歌いながら、お父さん、お母さんに子どもたちをシーツで巻きずしのように巻いてもらい、身体に圧刺激を入れてもらったりします。そのあと、切ったり、食べる真似でくすぐったりして楽しみます。シーツを介しているので、触られるのが少し苦手な子どもさんも比較的遊びやすいようです。

☆おすすめの親子遊びその2　　『バスにのって』

これは、「おかあさんといっしょ」で、体操のお兄さんらがしていた遊びですが、つくし教室でも取り入れています。（体操のひろみちお兄さんがされている親子遊びはけっこう参考になります）お父さん、お母さんの足の上に子どもたちを乗せてもらい、足を動かして揺らしたり、左右に身体を傾けたりします。それを「バスに乗ってゆ～られてる。ゴーゴー・・・」という歌に合わせ、子どもたちがバスに乗って左右に揺られたり、でこぼこ道を通っているようにしたり、止まる所は、お父さん、お母さんにギュッと抱きしめてもらったりします。

詳しくはつくし教室まで・・・

米原市こども療育センター

ひまわり教室

ひまわり教室は、発達に心配のある子ども達とそのご家族のために、早期からの療育の場として設けられたものです。
子ども達一人ひとりの発達を支え、家庭や地域集団での子育てを支援します。

☆　オススメの親子遊び紹介　☆

登園して身支度をしたら、まず自由遊び。
みんなが集まれば、担当指導員と一緒に楽しむ親子遊びが始まります。
今回は、親子遊びで子ども達の「にこ～っ」「あははっ」「もう１回！」がよくある遊びのひとつの

わっしょい

を紹介します♪

準備物は掛け布団。
あとは、大人が数人集まればOKです（^-^）v

子ども（写真はぬいぐるみ）が布団の中央に仰向けに寝転がったら、大人は布団を腰ぐらいまで持ち上げ、
♪「**わあっしょい、わあっしょい、わあっしょい、わあっしょい**（リズムに合わせてジャンプ）
１（ジャンプ）、**２**（ジャンプ）**の、３**（大ジャンプ）**！！**」
と、子どもを宙に浮かせるように布団を上下し、ジャンプさせてあげます。
特に最後のジャンプを高くしてあげると大喜びしてくれます。
そして、
♪「**ゆ～らゆ～ら、ゆ～らゆ～ら、ゆ～らゆ～ら、ゆ～らゆ～ら**（リズムに合わせて横揺れ）、
せ～の～で（引き続き横揺れ）、**どっすぅ～ん**（ゆっくり布団を下に降ろす）！！」
降ろしてあげた後、布団でぎゅぅ～っとくるまらせてあげたり、
そのままおうちの方に「すぅ～っぽんっ！！」と引っこ抜いてもらったりすると、更に喜んでくれます。

したがらなっかったり、身体を硬くしたり、布団を握り締めていたような苦手なお子さんも、
日々のかかわりや小さな刺激からの導入で、段々と安心してこちらに身を任せてくれるようになり、
期待して「わっしょい」を楽しめ、「もう１回！」と人差し指を立てて要求してくれます。
けれども、とても激しい遊びですので、お子さんに合わせた刺激の大きさや姿勢やかかわりを心がけてあげてくださいね。

ひまわり教室の伝統的な親子遊びです～（^▽^）

「いちご教室のお勧め親子遊びについて」

いちご教室は、滋賀県最北にある伊香郡の発達に課題のある子どもさんたちが通ってくる療育教室です。現在、40 名ほどの子どもさんが保護者と一緒に来ています。それでは、いちご教室での楽しい親子遊びを紹介したいと思います。

●雪遊び

いちご教室は冬になると、伊香郡は滋賀県南部とはまったく違う天候になります。天気予報で南部が晴れでも、北部は雪の予報が出ている事が多々あるように、雪が降り積ることもしばしばあります。

雪が降った日の療育は、療育のメニューを変更し雪遊びをすることがあります。ちなみにいちご教室は保育園の建物と敷地を利用した施設ですので、大きな園庭があります。雪が降るとこの園庭をいっぱいに使って雪合戦をしたり、スロープを利用してソリ滑りの台を作ったり、雪に色水を使ってお絵描きをしたり色々な遊びを楽しみます。

子どもさんもスキーウェアに着替えて（幼・保育園ではソリ滑り体験などがあるので、スキーウェアを持っている子どもさんが多いです）、もちろん保護者も一緒に斜面をソリで滑って雪遊びを楽しみます。

しかし、雪が積もると利用者の駐車スペースをあけるために人力での除雪作業が朝一番に待っていますが・・・・

●シーツブランコ

大きなシーツに子どもさんを乗せて、揺れを楽しむ遊びです。大人二人がシーツの両端を持ち、シーツの上に寝転んでいる子どもさんを、歌を歌いながら揺らして遊びます。「ブランコ♪ブランコ♪お母さんのところへ～飛んでゆけ～ドスン♪」と歌います。「お母さんのところへ飛んでいけ～ドスン!」の部分で、保護者の方の膝の上に子どもさんを乗せてぎゅっと抱きしめてもらいます。保護者の方だけではなくて、先生の膝や、ボールの上、ビーズの上に子どもさんを降ろしてもらったりと、揺れの刺激や抱かれる刺激などが楽しめる親子遊びです。また、自分がしてもらう順番を待ったり、「もう一回！」と要求を引き出すこともこの遊びでねらっています。

親子あそびの紹介

通園センター　ひかりの子

　親子あそびといっても、とくべつなあそびではありません。親と子が触れ合って心地いいなあと思う遊びのことです。
　最近は、おんぶとか抱っこがしっくりとできない子どもやお母さんたちもいらっしゃって、そんなことから始めます。
　そんな親子あそびのいろはを紹介します。

　い.『大型バス』　♪おおがたばすにのってます～♪というバスごっこという歌に合わせておんぶしてリズムよく歩きます。ときどきガタガタ道があったりバックをしたり、ぴっという音でストップしたり。その動きの揺れに背中の子どもはニコニコです。

　ろ.『おひざはバス』　♪お膝はバス～ぶぶ～ぶぶ～♪という歌（しまじろうでもやってます）に合わせて足を伸ばして座った上に子どもを乗せて揺らします。ガタガタ道のときには子どもを膝に乗せたまま左へ～右へ～と一緒に倒れます。最後は足を開いてドスンと子どもを足の間にすっぽり入れて到着。もういっかいやって！の声が聞こえてきそうです。

　は．ひかりの子では、０～４才くらいまでの子どもが保護者のかたと通ってきます。子どもの発達に合わせたいろんな遊びを経験して、好きな遊びがひとつ増えると、ひとつ成長のきっかけにつながるかなと思っています。

東近江市 めだかの学校

☆めだかの学校について☆

現在（H20年度後期）、めだかの学校には、127人の子どもたちが通所しています。午前と午後に分かれて20グループあり、午前は0～3歳児、午後は4、5歳児の子どもたちが、週に1 回親子で来ています。午前は、親子あそびやサーキットあそびを中心に親子で活動し、午後は、親と分離して、スタッフと活動をします。

☆親子あそびのねらい☆　親子あそびは、午前グループでします。

＊ 親子で参加することで、一緒にあそぶことは楽しいと、お互いが感じられること。
＊ 保護者自身も、子どもへの関わり方やあそび方を知ること。
＊ 楽しいと感じることで、「もっとしてほしい」と、要求が出るようになること。
＊ あそびの中で、相手と調整しながら、からだの使い方を知る。

☆親子あそびの紹介☆

①タオルぶらんこ

♪一羽のカラスがかあかあ、二羽のにわとり　こけこっこ、三匹さかなが泳いでる、
し～は白髪のおじいさん、ご～はゴリラの花子さん、わっしょい、わっしょい、
おみこし　わっしょい　♪

バスタオルの上に子どもが寝て、大人二人がそれぞれタオルの両端を持ち、曲に合わせてタオルを横に揺らします。♪わっしょい～　の時は、上下に揺らします。

②くすぐり

♪いちじく　にんじん　さんしょに　しいたけ　ごぼう　むかご　なす　はくさい
きゅうりの～　とんがらし～　♪

ごろんと寝転び、曲に合わせて子どもの全身を力強く一気に、頭から足にかけてなでていきます。きゅうりの～で、いったん手を止め、とんがらし～で、体をくすぐります。子どもたちは、期待をしてくすぐられるのを待っています。

③パンチング列車（右の写真）

パンチングという長いクッションに子どもが乗り、引っぱります。引っぱる時に、スピードを調節したり、時には大きく揺らしたりして、しっかり姿勢を保って乗れるようにします。

トンネル（写真左のカーテン）をくぐる時は、手前で止まり、「3、2、1」の合図でいきおいよく、くぐります。BGMは、グループによって違いますが、スピード感がある曲が好まれます。

今回紹介したものは、ごく一部のよくしているあそびです。
この他にも、いろんな親子あそびをしていますので、詳しくはめだかの学校まで。

野洲市早期療育通園事業

『　にこにこ教室　』

にこにこ教室は・・・・

野洲市に在住の心身に障がいのある就学前の子ども又は、その疑いのある子どもとその保護者のための療育教室です。

子どもたちが、まわりの世界に目を向け自ら関わっていこうとする姿を大切にし、大人や友だちと関わって遊ぶ楽しさに気づいていけるようにし、そして保護者がそれぞれの子どもの特性を受け止め、共に子どもの歩み（成長）を支えていけるように支援しています。

～親子遊びの紹介～

①　おうまのおやこ（０・１・２歳児のグループ）

自分のお母さん･お父さんの膝に座り♪おうまのおやこ～♪の歌にあわせて揺れます。

１曲歌い終わると隣のお母さん･お父さんの膝に「ひっこし」して座ります。

最初は「お母さんじゃなきゃ、いやだ～！」と泣きベソをかいていた子どもたちですが、「〇〇チャンのお母さんだよ。おいで･･」と迎えてもらうことを繰り返すうちに、笑顔で交代ができるようになりました。

保護者にとっても我が子だけに関わるのではなく、グループの子どもたち一人一人を受け止め、関わってもらう絶好の機会となっています。

②　パタパタ遊び

中央に花紙(色つきの薄紙)を置き、かけ声と共にうちわで床近くから一斉にあおぎます。
四方から風を送るので竜巻が起こり、花紙が上へ上へと舞い上がります。

《　準備するもの　》・花紙６枚切くらいの大きさ（何色もあったほうがきれいです）
・うちわ（人数分）
・ビニールシート（片づける時に、便利です）

親と子が「きれいだね～」と共感できる感覚遊びの一つとして、取り上げています。

特に、自閉症や肢体不自由児のグループで遊んでいます。

天井が高ければ高いほど、きれいに舞い上がります。

天井から舞い降りてくる花紙を、いつまでもいつまでも見続ける子どもたちの姿が見られます。

大津市立子ども療育センター　　わくわく教室

わくわく教室は、２００２年に旧志賀町の療育教室として開設し、大津市と合併後、大津市の北部地域の療育を担う場となりました。子どもらしい生活を大切にした集団活動を通じて発達支援をすることと保護者の育児支援をすることを目的としています。現在、幼稚園や保育園に就園する前の子どもたち２０名程度が通ってきています。

親子あそび

子どもたちはリズムあそびが大好きです。とんぼ、汽車、うま、カエルなどいろいろなものになり、音楽にのって身体を動かして楽しんでいます。おかあさんと一緒の時は、“みてみて”とばかりにはりきる子、ちょっぴり恥ずかしくておかあさんにしがみつく子などさまざまですが、おかあさんと一緒にすることで、“やってみようかな？”“もっとやりたい！”という気持ちをふくらませて楽しんでいます。

そのなかから・・・・

♪とんぼ

“とんぼ”の歌をうたい始めると、手を横に上げて走り、最後にピッと片足を上げて止まります。トンボになったつもりでとても楽しみます。でも、おかあさんと一緒の時はおかあさんにひっつきたくなります。そこで始まるのがおんぶトンボ！です。子どもがおかあさんにしがみついて、おかあさんは手を広げて走ります。子どもたちはギュッとしがみつかないと振り落とされるから必死！でもそれがとっても楽しく、振り落とされずにできたことが誇らしげです。うたっているあいだずっとしがみつくのがむずかしい子どもたちには、おかあさんに手を添えてもらい、最後のピッと止まるところだけ手を広げてもらいます。ちょっとだけでもしがみつけたことに大満足です。

♪金太郎

おかあさんがうま（ハイハイ）になり、子どもはおかあさんの背中にのります。“金太郎”のうたに合わせておかあさんはハイハイをし、子どもは落ちないようにのって楽しみます。できれば足を広げて背中をまっすぐにして座り、腰を軸にしながらバランスをとります。もちろんおかあさんにしがみついて落ちないようにすることでも充分に楽しめます。

と　ん　ぼ

金　太　郎

どちらのあそびも、おとうさんにしてもらうと、よりダイナミックなあそびが楽しめます。おかあさん、おとうさんに安心して身をゆだねるなかで、お互いの身体のぬくもりを感じ、気持ちが通い合って心まであたたかくなりますよ。

滋賀県立小児保健医療センター療育部

滋賀県立小児保健医療センター療育部は、児童福祉法に基づく知的障害児通園施設（定員30名）と肢体不自由児通園施設（定員40名）を併せた施設で、ともに障害者自立支援法の障害児施設として県の指定を受けています。

知的発達や運動発達の遅れがあったり、対人関係や情緒面の発達に偏りが見られる就学前の子どもたちが、家族とともに通園しています。

当センター診療部・保健指導部の協力を得ながら、それぞれの職員の専門性を活かした総合的な療育・リハビリテーションを行い子どもたちが地域で家族とともに豊かで快適に生活していけるよう支援しています。

＜療育部で人気の親子遊び＞

療育部では、午後の時間に　すべてのグループの子どもさんが一緒に集まって遊ぶ時間を作っています。たくさんのお友だちからいろいろな種類の刺激をもらえる場として、そして、保護者同士の交流の場として活用されています。

その中で行っている「親子遊び」を紹介します。

1.　ぞうのねがえり　（ゆっくりやると、リラックスできます）

♪ぞうの　寝返り　よっこらしょ　足をのばした　そのまんま♪

1番　ぞう　・・・あおむけで　両足を左右に　ぶらぶらさせる

2番　へび　・・・うつぶせで　両足ぶらぶら

3番　だるま・・・大人の膝に座り　一緒に左右に揺れる

2.　野菜のうた　（リズミカルにやると、楽しいですよ）

♪きゅうりは　キュッキュッキュ　・・・だきしめる

トマトは　トントントン　・・・握りこぶしを打ち合わせる

キャベツは　キャッキャッキャ　・・・肩をつまむ

れんこん　コンコンコン♪　・・・頭を軽くコンコン

3.　ガリガリ山　（いくよ、と　期待させてから　カリカリしましょう）

♪ガリガリ山から　・・・手の甲を掻く

つねちゃんが　・・・手を甲を握る

遊びに来ました　・・・握りながら肩まで上がる

トントントン　・・・肩をたたく

あそびましょ　（　あたま　）♪　・・・言われた場所を　カリカリ掻く

4.　コチョコチョ　ダンシング　（子どもさんを寝かせて、体じゅうをくすぐりましょう）

♪ラララ　どじょう　ラララ　どじょう　ラララ　どじょうのダンス

ニョロニョロダンスを　みんなで　おどろよ　ララランラ　ラン　ラン　ラン♪

1番　どじょう　・・・合掌した手の　小指側で　全身を　くすぐる

2番　うさぎ　・・・チョキの指先で　全身を　つつく

3番　ライオン　・・・全部の指先で　全身を　掻くように　くすぐる

5.　ゴロゴロ　タマゴロン　（みんなの好きなパラバルーンを使います）

♪ゴロゴロたまごは　おりこうさん　ゴロゴロしてたら　右向いた　ゴロ～ン♪

1番：右向いた・・・子どもを抱っこしたまま　仰向けに寝ころび、左右に揺れる

最後は　頭の上を通るパラバルーンを追いかけ、右に倒れる

2番：左向いた

3番：卵焼き　・・・手足をバタバタさせる　最後は「ムシャムシャ」で、全身をくすぐる

巡回療育相談事業として、県下の地域療育教室に職員を派遣し、保護者やスタッフの方々に療育支援を行っています。また、療育に携わっている関係者等に対して、療育研修事業も実施しています。

平成18年度から新たに視覚障害児早期療育事業として、視覚に問題をもつ子どもに対して、視覚に特化した療育の提供を目的に研修事業等を行っています。

くすぐりやスキンシップをたくさん取り入れています。ぜひ、おうちでも　親子で楽しく遊んでください。

湖南市 ぞうさん教室

ぞうさん教室は、発達の心配のある子ども達とそのご家族のために、子どもの成長を促し、
保護者の育児を支援する教室です。

☆　子どもに人気のある親子遊び　☆

布ブランコ

・ 子どもが寝転がることのできる大きさのシーツや毛布、掛け布団などを用意します。
・ 子どもが中央に寝転がったら、大人は布を腰ぐらいの高さに持ち上げます。

♪「**大波、小波、大波、小波で**（リズムに合わせて横揺れ）
トランポリンの山へ、飛んで行け、
せーの、ど～っし～ん」（布を小刻みに揺らし、布をトランポリンの上にゆっくり降ろす）

＊ 飛んで行く場所は、トランポリンとは限らず、マットの上やお母さんの腕の中だったりと様々です。子どもに、どこに飛んで行きたいか聞いてみても楽しいですよ。
＊ 揺れの苦手なお子さんでも、布団やビーズクッションなど安定した物を使い、小さな揺れから始めることで慣れ、楽しむことができます。

ギュー

大人があぐらをかいて座りその上に子どもを座らせ、
♪「**頭をギュー・パッ、ほっぺをギュー・パッ、**
肩をギュー・パッ、腕をギュー・パッ、
足をギュー・パッ、全部まとめてギュー・パッ」

・ 「**頭をギュー**」っと言いながら、両手で頭を横から挟んで圧を加えていきます。「**パッ**」で手を離します。（ほっぺ・肩同様）
・ 腕は、胸の前で交差、足は三角座りの様に曲げて行います。最後に、子どもの身体を包み込むように、一度に全部場所へ圧を加えていきます。

＊ 圧の加減や場所は、子どもに応じて調整して行ってください。

☆ **親子遊びは、大人と一緒に「たのしい」と子どもが感じ、「もっとしたい」「またしたい」という要求や期待につながることを大切にしながら行っています。**

日野町早期療育事業 くれよん

くれよんは、平成 20 年度に日野町単独の早期療育教室としてスタートしました。

くれよんでは、心身の発達に何らかの課題があったり、その心配（心身の障害、ことばが遅い、落ち着きがない、友達と遊ばない、発育が遅いなど）がある子どもさんとそのご家族とともに、子どもたち一人ひとりに応じたかかわりを大切にしています。

今回は、2～4 歳児の子どもたちのグループで保護者の方やスタッフがともに楽しんでいる親子遊びを紹介します。

☺公園へ行きましょう☺

① 曲や歌に合わせて、みんなで円になって歩きます。

② 適当なところで、みんなで手をつないでぎゅっと小さい輪になったり広がって大きな輪を作ります。

③ 子どもたちの様子を見ながら適当なところで、手をつないだまま時計回りに歩きます。

④ 今度は適当なところで、手をつないだまま反時計回りに歩きます。

今回は、①～④の順番で紹介させていただきましたが、②～④は子どもたちの様子を見ながら、入れ替えてあそんでもらっても OK です。

②の大小は、小さくなるときにはスピードを速めたり、大きくなるときにはゆっくり輪を作るなど、変化をつけてもおもしろいですよ。

リズムに合わせて身体を動かしながら、大小を感じたり、お友達や大人と一緒に楽しむことができる『公園へ行きましょう』♪

この遊びを始めた当初は、足の運びがぎこちなかった子どもさんが繰り返しの中でうまく足が運べるようになったり、表情の変化の少ない子どもさんがスピードを速めて小さな輪を作ることに声を上げて喜んでいたり･･･

準備物は特になし！！3 人以上の人がいれば楽しく遊ぶことがでます。『公園へ行きましょう』や『さんぽ』など、歩きやすいテンポの曲や歌に合わせて、ぜひやってみてください。